

きん にわとり めぬきかざ いけのしりちよう
金の鶏の目貫飾り（池之尻町）

昔、池之尻の何代目かの庄屋が丸亀から帰る途中、大泉の墓地にさしかかった。その墓地の墓石の間に一人の女が鏡台をすえて髪をといていた。そのそばに女の子どもが二人いた。そこを庄屋が通り過ぎようとすると、女の人が、

「さあ、お父さんが帰った。行きなさい。」

といった。すると二人の女の子どもが、庄屋のところへ走りよってきた。これは怪しいと庄屋は腰の刀のつかに手をかけて抜こうとした瞬間、どこかで鶏が鳴いた。すると、不思議なことに、女も子どもも、すぐに消えてしまった。

翌日、庄屋が刀をみると、目貫飾りの金の鶏がない。はてなと思ひ、下男を使いによつて、大泉の墓地を調べさせると、金の目貫飾りが落ちていたという。

※ 近藤家に伝わる伝説

（「観音寺市誌」より）

